

ちゅう しゅうがくりょこう やまだせき しらべがくしゅう し なかむら てつ いぎょう  
**中3修学旅行の山田堰の調べ学習で知った中村 哲さんの偉業**

れいわ ねん がつ にち すい しのはらこうちゅう  
 令和2年12月2日(水) 篠原校長

い し なかむらてつ ぶそうしゅうだん しゅうげき う きょうだん たお  
 医師の中村哲さんが、アフガニスタンで武装集団の襲撃を受け凶弾に倒れて、まもな

く 1周忌となります。最近様々なニュースで取り上げられて話題になっています。本校の

ちゅうがく ねんせい こんかい しゅうがくりょこう ちくごがわ やまだせき しら がくしゅう なか なかむらてつ  
 中学3年生も今回の修学旅行で、筑後川の山田堰の調べ学習をする中で、中村哲さんの

いぎょう し  
 偉業についても知ることができました。その

しら がくしゅう はつびょう かんせい  
 調べ学習の発表ビデオが完成しました。1

しゅうきまえ あ かんせい なに  
 周忌前に合わせるように完成できたのも何か

えん なかむら てんごく  
 のご縁でしょう。きっと、中村さんが天国から

できば  
 ビデオの出来映えをほめてくださるでしょう。



山田堰の展望所の掲示物

### 国営筑後川中流土地改良事業 (総事業費：185億円)

筑後川中流域は一級河川筑後川水系筑後川の中流域に位置し、大石堰、山田堰、恵利堰によってかんがいする久留米市、小田山、うきは市、朝倉市及び三井郡大川町にまたがる、191haの農業地帯です。従来の農業水利施設は、国営筑後川中流土地改良事業(昭和56年度～平成7年度)により造成および改修されましたが、経年的施設の老朽化により、頭首工や水路の性能低下が通行し、農業用水の安定供給と維持管理に支障を来すこととなります。

このため、国営施設機能保全事業「筑後川中流域地区」により、農業水利施設の機能を保全するための整備を行い、施設の長寿命化により農業生産性の維持及び農業経営の安定に寄与するものです。

### 山田堰

山田堰は長さ320m、堰高3m、総面積25,370m<sup>2</sup>の底を有する日本唯一の傾斜堰体式石堰です。江戸時代に築造されたから何代か経緯はされたものの当時の原形は留めたま、現在も農業用水を供給し続けています。山田堰には南川通し、中川通し、上砂利の3本の水路があり、流水は堰の下流で衝突、減勢するようにそれぞれの水路が配置されています。

なお、川通しは、川原に利用されるだけでなく、魚道としての機能ももっており、生態系にも配慮したつくりになっています。

洪水時には、水石堰体を越流して溢れるため、利水、治水の機能を併せ持つ、技術的にも多様で高度な堰で、2014(平成26)年に世界かんがい施設遺産に登録されました。

### 山田堰の技術を世界へ

～日本から遠く離れたアフガニスタンに、もうひとつの山田堰が完成しました～

2010年10月撮影

日本から直線距離で西に約8,300kmに位置するアフガニスタン。大地は戦乱や干ばつで荒れ果て砂漠化が広がっていました。中村哲医師は医療組織ベシワール会現地代表として、1984(昭和59)年から11回アフガニスタンの民衆の診療に携わってきました。

2000(平成12)年以降は、干ばつに襲われおびたしい人々が飢饉で亡くなりました。中村哲医師は、農地が砂漠化するのを自の当たりし、病気の予防には飲料水・食料不足があると考え、井戸掘りに奔走し、2006(平成18)年までに1,500箇所の水眼を得ました。

そして、「100の診療所より、1本の用水路を」と、2002(平成14)年に「緑の大地計画」を立案し、2003(平成15)年にアフガニスタン東部でマルワリー下用水路の建設に着手しました。

取水堰築造にあたって日本各地の堰を巡れ、自然の素材を使った「傾斜堰体式石堰」の「山田堰」をモデルにクナール河に築造し、2010(平成22)年にマルワリー下用水路25.5kmが開通。荒野と砂漠だった3,400haが農地よみがえり、15万人の農民が帰農するまでに復興しました。

2020(令和2)年には、クナール河に3ヶ所の「山田堰方式」の取水堰が築造され、荒野と砂漠16,500haが農地となって、65万人の農民の暮らしを支えています。

【マルワリー下堰】 2010年  
 【水車群】 2010年03月撮影  
 【水車群】 2014年03月撮影

**ICID 世界かんがい施設遺産登録 2014年9月**

### 山田堰・堀川用水・水車群

Yamadazeki Horikawayousui Waterwheels

山田堰は1663年に造られ、1790年河道全体を覆う「傾斜堰体式石堰」として大改修されました。灌漑面積は現在650ha。堀川用水と呼ばれる水路は総延長88.1kmにもなります。大改修の指揮を執ったのは古賀尚工。のべ62万人の農民が出陣しました。

堀川用水に架かる水車群は1789年に設置され、5年毎の刷新更新を繰り返しながら7基が稼働。約35haの水田を潤しています。

山田堰は、単なる治水だけでなく、2010年FWS現地代表中村哲医師が遠くアフガニスタンの農村復興のモデルとして築造し、現在16,000haの農地よみがえらせています。(掲載は2019年9月)

2014年9月 ICID (International Commission on Irrigation and Drainage) 世界かんがい施設遺産登録

世界かんがい施設遺産とは…  
 灌漑施設の歴史を学びその継承を目的として、  
 100年以上の農業発展に大きく寄与し、歴史、  
 技術的・社会的価値の高い施設を、国際的に  
 認められ、ICIDが認定し、登録する制度です。  
 ICID(International Commission on Irrigation and Drainage)

2019.3  
 寄贈 公益社団法人 日本灌漑協会

RKB 毎日放送 11/30(月)より

医師の中村哲さんが、アフガニスタンで凶弾に倒れて、まもなく1年となります。福岡市天神では、30日から中村さんの功績をたたえる写真展が開かれています。福岡市のNGO「ペシャワール会」の現地代表だった医師の中村哲さんは、パキスタンとアフガニスタンで、医療や農業支援などに力を尽くしてきましたが、去年12月4日アフガニスタンで凶弾に倒れました。

一周忌にあわせてアクロス福岡で始まった写真展には、35年間の活動を振り返る写真約100点が展示されています。完成した用水路で、アフガニスタンの子どもたちと写真に収まる中村さんです。「私たちの小さな試みが、平和への捨て石となり、大きな希望に繋がることを祈る」という中村さんの言葉が添えられています。中村哲さんの写真展は12月6日まで開かれています。

